



陸前高田プログラムガイド

立教大学陸前高田サテライト



想い、馳せる。

ふとした瞬間に陸前高田で出会った人たちのことを思い出す…。陸前高田の未来に思いを巡らせる…。何度も何度も通いつめることは難しいし、私たち一人ひとりができることには限界があるかもしれない。だけど、一人ひとりの「少し」が大きな力になることを信じている。だから、また私は陸前高田を訪ねる。

想い、馳せる、さまざまなカタチ 正課教育プログラム



陸前高田をフィールドとした課題基盤型学習プログラムです。スタンフォード大学をはじめとする海外大学の学生と協働し、すべて英語で行います。事前学習、現地研修、事後研修を通して、陸前高田市の被害状況や復興の取り組み・現状を自身の体験として知るとともに、被災地や被災者の抱える復興における課題を共有します。そして、海外の大学生も交えた協働作業により、広く多様な視点で課題解決の提案を行い、深い思考や発信する力を伸ばします。



ICTやAI（人工知能）を学ぶだけでなく、そうした技術を人のために役立てるには、どのように利用すればよいのか——。株式会社ウェブインパクトの寄附を受けたこの講座では、実践的で経験豊富なエンジニア講師陣から集中講義でICTの基本、AIの使い方を学んだ後、陸前高田へ赴き、自ら現地のニーズを確認します。それらをもとに陸前高田の中高校生を中心とした地元の人々と共に、ICTやAIを活用したコミュニティ支援を実践します。



03 ICT教育の実践による コミュニティ支援

- ICT・AIを誰かのために使うには -



未曾有の災害からの復興の道を歩みながら「SDGs未来都市」として挑戦を続ける陸前高田市（ローカル）とニューヨークの国連本部（グローバル）の双方をフィールドとしたプログラムです。現場での活動と教室における理論的な学習を統合し学びを深める「立教サービラーニング（RSL）」の手法を生かし、地域が抱える諸問題が実は世界各地で共通する課題であることを認識し、国際機関に勤務する国家公務員や外交官の方との懇談を通してその解決方法などについて考えます。



『学ぶ英語』から『ちょっと使える英語』へ——。「中学生の英語を使うハードルを下げたい」そんな陸前高田市教育長の熱い思いを受け、異文化コミュニケーション学部が開発したプログラムです。豊島区内ならびに陸前高田市内の小中学生対象の英語活動を通して、自己のコミュニケーション能力を高めるとともに、生徒の年齢や学習段階などを考慮に入れた言語活動を企画・体験し、理論と実践を結びつけていきます。



05

東日本大震災 RDY (立教生ができることをやろう) プロジェクト

—現地に行きつづけることの意味と記憶の継承—



社会学部

陸前高田や唐桑を訪れ、震災前から現地に暮らす人びと、震災をきっかけに移住してきた人びととの交流を積み重ねながらフィールドワークを行い、そこで発見したこと、気づけたことを現地にフィードバックしつつ記録・記憶・記述し、立教生ができることとは何かを考え、発信・実践していきます。2012年から積み重ねてきた現地の人々との関わりを生かし、交流の未来を共につくっていくプログラムです。



※正課教育プログラムの履修についてはシラバス・時間割検索システムを参照してください。

正課外教育プログラム

立教大学と陸前高田市のつながりの原点となったプログラムです。生出地区にある「ホロタイの郷『炭の家』」に宿泊して共同自炊生活を行いながら林業について学び、実際に森の中で枝打ちや除伐作業を行います。日本の林野環境について森を始点として考える、地元住民と林業というサイクルの長い作業を共にして生きることを意味を考える、そして、共同生活を通じて他者理解と自己の再発見をする——そのような思いが込められたプログラムです。



01 林業体験

—陸前高田の森に学ぶ—



主催部局 学生部

03 春呼びシリーズ企画

—つながりをより深く、より広く—



主催部局 陸前高田グローバルキャンパス (立教大学陸前高田サテライト)

02 インターカレッジ・フィールドワーク

—岩手大学コラボプログラム—



主催部局 陸前高田グローバルキャンパス (立教大学陸前高田サテライト)

陸前高田グローバルキャンパスを共同運営している岩手大学と協力して行うプログラムです。陸前高田市が力を入れている「民泊」は、復興に向けて歩む人々の意識や生活、地域の歴史や伝統など、多くの「生」の情報に触れることのできる体験です。民泊体験などのフィールドワークを通し、他大学の学生とも交流しながら、日本の地域社会、特に震災を経験した地域で人々が日々紡いでいる生活に触れ、そのリアリティを感じ取る体験は、視野を広げ、その後の学びにも活かし得るものとなるでしょう。



陸前高田グローバルキャンパスでは、陸前高田市を「大学生が絶え間なく訪れる交流のまちにする」という方針を掲げ、様々な事業を展開しており、この企画もその一つです。陸前高田市を訪れた大学生や卒業生、市民との関係性がより深まり、顔と名前が分かるような間柄になることを目指したイベントです。年間の活動成果を共有するシンポジウム、全国の大学関係者と市民で作り上げる大学祭などを実施し、立教生も企画や運営に関わり活躍しています。



ゼミで、サークルで、魅せられて…

先輩たちの声

ゼミで



経済学部経済学科
長塚 瑠奈さん

- ・陸前高田プロジェクト (4ページ) 履修
- ・ゼミ合宿
- ・陸前高田学生ツアー企画

また行きたくなる町、陸前高田

初めて陸前高田を訪れたときは、震災遺構を見て想像以上の津波の威力を肌で感じ、10年近く経過しても未だ町では工事をしているという現実と認識のギャップに驚き、市民の方々からの生の声を聞き、生で見る・感じることの大切さを実感するとともに、もっと陸前高田のことを知りたいと思いました。その後、ゼミ有志の合宿では、震災後に地元で事業を再開・開始した事業者の方々に会うという初回とは別の角度から陸前高田を知ることができました。この2回の経験はとても刺激的で、今後も繰り返し陸前高田を訪問し続けたいと思い、学生向けツアーの企画を始めました。



陸前高田でよさこい演舞

よさこい連で春呼び祭に参加し演舞を披露しました。自分の大好きなサークル活動で高田の方々と交流することができたり、笑顔になってもらうことができ、とても幸せな気持ちになりました。演舞の途中で手拍子をしてくださる温かさもうれしかったです。自分たちにとっても、普段のサークル活動と場所が違うだけでかなり新鮮な気持ちになれました。地方に行くと東京では出会えない素敵な方々のご縁ができ、新しい価値観に触れることができます。春呼び祭の参加をきっかけに、他のボランティアセンターのプログラムにも参加するようになり大変充実した学生生活を送ることができました。

サークルで



経済学部経済学科
及川 信一さん

- ・春呼び祭 (7ページ) でよさこい演舞

魅せられて



社会学部現代文化学科
富田 美月さん

- ・1年次～RDYプロジェクト (6ページ) で学生ツアーを実施 (7回)
- ・1年次、NHK「東北初☆未来塾」参加
- ・2年次～サークルで子ども向けクリスマス会を実施 (3回)
- ・4年次、現地での出会いをもとに卒業論文を執筆

そこに「在れる」場所

「ここに来ると、ありのままの自分でいられるなあ…」何度目かの陸前高田で、気づいたら口にしてた言葉です。東日本大震災以降、自分にできることを模索するも、なにもできずに大学生になり、入学後出会ったFrontiersというサークルが参加しているRDYプロジェクトで初めて陸前高田を訪れ、その後繰り返し現地に足を運ぶようになりました。震災を知ること、それにとどまらずそれを経験した方の人生に触れていくことでもあり、同時にそうした複雑なものを感じるには、素直な自分で現地に立つ必要があると気づかされました。思いがけず自分が知らなかった自分にも出会うことができました。



陸前高田へ行ってみよう!

グロキャンって何!?

陸前高田グローバルキャンパスは、陸前高田市の協力のもと、地元の国立大学である岩手大学と立教大学によって開設された交流活動拠点で、両大学が共同で運営しています。立教大学が独自で提供しているプログラムの他に、「大学生が絶え間なく訪れる交流のまち」「防災・減災をどこよりも深く学べるまち」の創出を目指したグローバルキャンパスとしてのプログラムも展開していますので、是非参加してみてください!

廃校となった中学校の空き校舎を改修したキャンパスは、誰でも自由に利用できるラウンジの他、イベントの開催や陸前高田訪問時の活動拠点としてなど、様々な用途に合わせてレンタルが可能な、モンティ・ホール (講堂)、ワークショップルーム、多目的室などが用意されています。立教生はタダで利用できますので、是非ご利用ください。施設概要・利用方法はWEBでチェック!



交通費・宿泊費援助金制度を使って高田に行こう!

陸前高田市は、岩手県南東部の太平洋岸に位置する都市で池袋から約520kmの距離にあります。立教大学では、本学の学生および大学院学生が陸前高田サテライトを積極的に利用できるよう、一定の条件を満たした場合に、陸前高田サテライトを訪問する学生の皆さんの交通費・宿泊費の一部を経済的に援助することを目的として、「立教大学陸前高田サテライト利用に係る交通費及び宿泊費援助金」制度を導入しています。陸前高田グローバルキャンパスを利用する場合には、援助金制度を積極的に活用してください。

1回だけじゃもったいない!?

初回利用の場合、往復交通費14,000円を上限として実費が支給されます。2回目以降はその上限が21,000円に増額されます。また、宿泊費は利用回数にかかわらず1泊6,000円を上限として実費が支給されます (1回あたり6泊まで)。1回だけではなく、2回3回と足を運んでください!



アクセス

陸前高田グローバルキャンパスへのアクセス (公共交通)

東北新幹線一ノ関駅より

一ノ関駅

↓ JR大船渡線 (所要時間: 約1時間20分)

気仙沼駅

↓ JR大船渡線BRT (所要時間: 約50分)

脇ノ沢駅

↓ 徒歩 (所要時間: 約25分)

陸前高田グローバルキャンパス

池袋駅よりバスを利用の場合

池袋駅西口

↓ 岩手県交通 けせんライナー (所要時間: 約8時間)

陸前高田駅

↓ JR大船渡線BRT (所要時間: 約16分)

脇ノ沢駅

※脇ノ沢駅以降、同上



立教的 陸前高田 マップ!

立教生が陸前高田へ行くなら、まずはここをチェック。併せて立教大学とつながる地元の方々をご紹介します。



提供：東海新報社

ゆかりの人

河野 和義さん

立教大学の校友で陸前高田市内の老舗の醤油屋「八木澤商店」の会長。津波で工場もろもろすべて流されてしまいましたが、そこから従業員と共に立ち上がり工場を立て直しました。現在は、アバッセたかた内で「やぎさわカフェ」も経営しています。



4 陸前高田 グローバルキャンパス

グローバルキャンパスには、被災前の陸前高田市街地を復元し地元の方々の思い出が書き込まれた旗がたてられている市街地模型が常設展示され、次世代型応急仮設住宅「ムービングハウス」を活用した体験型研修プログラムも実施しています。



ゆかりの人

千田 信男さん、千葉 修悦さん

グローバルキャンパスの管理人さん。千田さんは民俗芸能がお得意でお寺や歴史にも詳しく、立教大学とは震災直後からの長い付き合いです。千葉さんは陸前高田市のお隣の住田町で熱い思いをもってまちづくりに取り組んでいます。グローバルキャンパスに来たら、是非、事務局までおちゃっこの来ててください!



提供：東海新報社

1 奇跡の一本松と 東日本大震災津波伝承館

かつての陸前高田は約77,000本の高田松原が広がる風光明媚な場所でした。松原は大津波により1本を残してすべて流されてしまいました。その松は「奇跡の一本松」と呼ばれ、多くの人の寄付によりモニュメントとして残されています。2019年には東日本大震災津波伝承館がオープンし国内外から多くの方が訪れています。



5 旧米沢商会 ビル

中心市街地でパッケージを販売していた米沢商会。経営者の米沢祐一さんにとって震災当日は娘さんのお宮参りの日でした。しかし、その数時間後、店舗ビル屋上のさらに上まで登り、膝まで津波につかりながら生き延



ゆかりの人

米沢 祐一さん

ラジオが好き。娘さんを何より大切にしています。



びるという壮絶な経験をされます。米沢さんはこの建物を自力で保存し、その日の出来事を語り伝えています。多くの立教生が米沢さんのビルでお話を伺ってきました。

ゆかりの人

陸前高田市ゆめ大使☆ たかたのゆめちゃん

陸前高田市のマスコットキャラクター。奇跡の一本松の上に住んでいます。実は、当時の立教大学コミュニティ福祉学部の学生が応募したデザインが採用されたものです。



©Aid TAKATA

立教大学と陸前高田のつながりの軌跡

2003年に陸前高田市矢作町の生出地区で開始した「林業体験」プログラム(6ページ)でつながりのあった同市を、2011年の震災後すぐに重点支援地域に指定しました。震災直後から様々な復興支援活動を展開し、2012年には長期かつより多様な分野での連携・協力を実施するために協定を締結、学生が参加できるプログラムも充実していきました。2017年には岩手大学と共に交流拠点「陸前高田グローバルキャンパス」を開設し、大学生はもちろん、地元の方々、国内外から陸前高田を訪れるの方々など、年間約5000人が活動拠点として利用しています。これからも「細くとも息の長い」活動を展開していきます。



3 立教の森と ホロタイの郷「炭の家」

林業体験で訪れる立教生のために地元の方々が「立教の森」を用意してくれています。宿泊している「ホロタイの郷『炭の家』」には歴代の立教生の足跡が…。「炭の家」では立教大学の職員研修も行っています。立教生なら一度は訪れたい場所です。

ゆかりの人

菅野 征一郎さん

林業体験の受入れに尽力くださった生出地区コミュニティ推進協議会の元会長。現在は会長職は退かれましたが、立教生を温かく見守ってくださっています。



ゆかりの人

渡辺 鉦悦さん

立教大学とは2011年からの長い付き合い。ご自宅の壁には津波浸水高T.P.+15.4mが記録されています。立教大学の学生向けプログラムや職員研修で市内を案内していただいています。



ゆかりの人

鈴木 英里さん

立教大学の校友で気仙地区の地元新聞「東海新報」の記者。この冊子に掲載しているいくつかの写真を提供してくださいました。英里さんのやわらかい雰囲気取材の場も和み、地元の方から慕われています。





RIKKYO UNIVERSITY
RIKUZENTAKATA SATELLITE

池袋キャンパス



立教大学陸前高田サテライト事務局

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL 03-3985-4967 FAX 03-3985-4657
開室時間 月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30
Email: rrs@rikkyo.ac.jp



何でも気軽に相談してください。

新座キャンパス



立教大学ボランティアセンター

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-6682 FAX 048-471-7312
開室時間 月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:30

ボランティアセンターに相談してください。